香川大学DX推進研究センター「DXラボ」

香川大学情報化推進統合拠点DX推進研究センター

1. はじめに

- 香川大学はDX推進組織としてDX推進研究センターを設置
- DX推進研究センターに，DX推進の実行組織として，学生中心のDX推進プロジェクトチーム「DXラボ」を設置
- 「DXラボ」は，業務UX調査，業務改善アイデアソン，業務システム内製開発，業務データ分析，内製開発/データ分析ハンズオンなど香川大学のDX推進に資する活動を実施
- 他大学や自治体，民間企業向けの人材育成プログラム「Kadai DX塾」など，「DXラボ」の活動は学外にも広がっている
- 内製業務システムを学内外で利用してもらうべく，「Kadai DXソリューションカタログサイト」（「KadaSolutions／カダソリューション」）を構築
- 「DXラボ」の活動を踏まえた業務システム内製開発を対象とした書籍「業務システム内製開発　入門編／応用編」を出版

2. 活動内容（一覧）

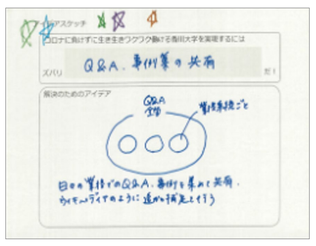
①業務UX調査
業務の抱える課題をユーザの視点で調査



デザイン思考 / 共創 / BMI

上司や先輩が残ってると帰りにくい…

②業務改善アイデアソン
業務を改善するアイデアを創出



デザイン思考 / 共創

縦割りで業務知識が分散している！

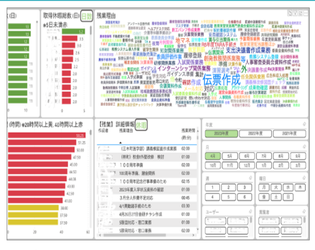
③業務システム内製開発
業務システムを内製で開発



デザイン思考 / 共創 / データ駆動

自分達が本当に欲しいシステム開発ができる！

④業務データ分析
業務システムで得られたデータを分析



データ駆動 / BMI

データに基づく大学経営！

⑤内製開発/データ分析ハンズオン
業務システムを開発できるスキルを獲得



デザイン思考 / 共創 / データ駆動 / BMI

自分達で開発できそうだぞ！

3. 業務システム内製開発／業務データ分析

DXラボの実績（2021年5月～2026年5月）

システム内製開発	研究論文	講演	ハンズオン
150以上 プロジェクト	26本 査読付き論文	304回 聴講者：17253名	68回 人数：2912名 学内：566名 学外：2346名



図　出退勤記録システム（KadaKintai）①

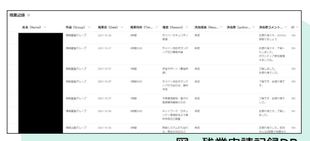


図　残業申請記録DB

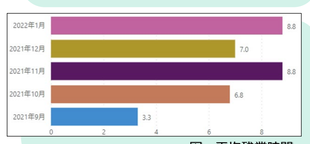


図　平均残業時間

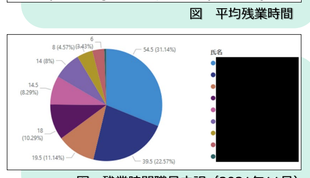


図　残業時間職員内訳（2021年11月）

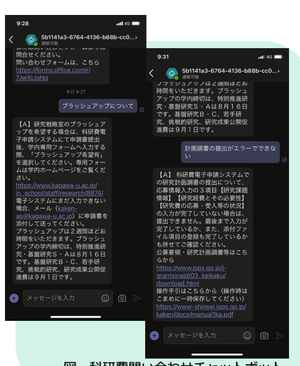


図　科研費問い合わせチャットボット

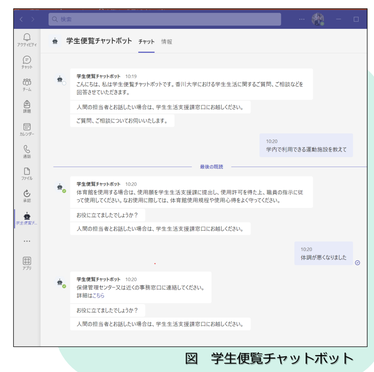


図　学生便覧チャットボット





図　落とし物管理システム

学生スタッフがわずか1週間で開発

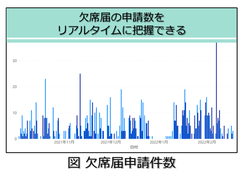


図　欠席届申請件数

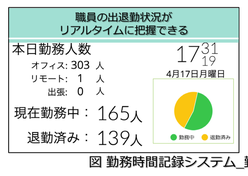
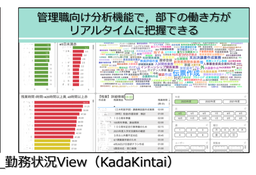


図 勤務時間記録システム_勤務状況View（KadaKintai）



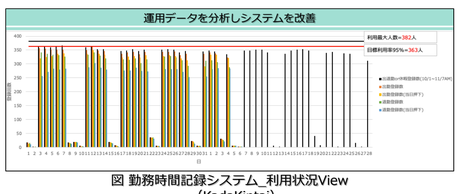


図 勤務時間記録システム_利用状況View（KadaKintai）



図 管理職向け勤務時間分析システム（KadaKintaiReport for Manager）

データに基づく大学運営・大学経営の実践
運用データからシステムの改善につなげる（DevOps，CI/CD）

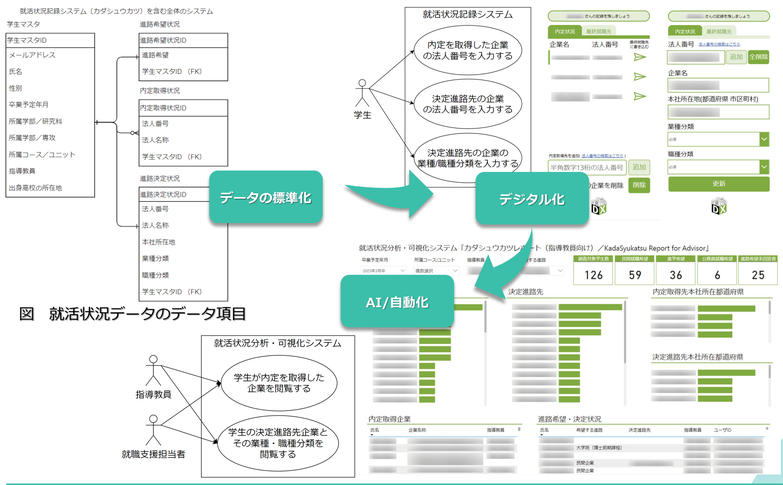


図　就活状況データのデータ項目

データを標準化することで，精度の高く活用できる分析が可能

4. 香川大学が実践してきたDX推進に基づく人材育成・実践支援

香川大学創造工学部教授で情報化推進統合拠点 DX推進研究センター長を務める八重樫理人教授が、一般社団法人電子情報通信学会(IEICE)より2025年度教育優秀賞を受賞しました。

本賞は、電子情報通信分野において教育効果の高い優れた実践を行い、特に人材育成への成果が顕著な取り組みに対して授与される名誉ある賞です。八重樫教授が主導してきた「システム内製化技術を中心としたディジタルトランスフォーメーション推進人材育成プログラムの開発」の功績が称えられ、この度の受賞に至りました。

受賞に至ったディジタルトランスフォーメーション推進人材育成プログラムである「KadaiDX塾」は、これまで計65回開催、延べ2870人が受講し(令和8年6月22日現在)、多くのDX推進人材の育成に貢献しています。



DX推進やDX人材育成の取り組みを高く評価された



図　ソリューションカタログサイト

図　アクセスユーザー(2023/6/1～2025/7/10)

図　システムダウンロード数（2023/6/1～2025/7/18）



図　欠席届申請システム

https://dx-labo.kagawa-u.ac.jp/

開発したシステムをダウンロードできるカタログサイトを開設

「情報系の技術職員ではない一般の事務職員でも理解でき、なんとか一人で取り組める内容で，しかも実際の業務にできるだけすぐに使えるものにしたい」





「DXラボ」の取り組みをベースに教科書を出版

5. おわりに

- DX人材育成の取り組みを学内だけではなく，学外にも展開していく
- 生成AIを活用した業務の効率化，業務課題の解決や，基幹システムと内製業務システムの連携にも取り組んでいき，得られた成果を人材育成や実践支援に展開していく

KAGAWA UNIVERSITY